

アート

展覧会
×
トーク

MAT Exhibition vol.2

つくること、続けること、これからの絵画について考える

絵画の何か -Something of Painting-展

Minatomachi Art Table, Nagoya [MAT, Nagoya] は、11月13日（金）よりアーティストと共に表現について考える展覧会「絵画の何か」を開催します。名古屋を拠点に活動する美術家の佐藤克久と共に企画した本展は、絵画/立体を手法に作品を制作する若手作家4名による展覧会です。また、期間中には全3回で構成されるトークシリーズ「絵画の夕べ」も開催します。展覧会やトークシリーズを通し、絵画を多角的に捉えることで、今日における「絵画」の可能性について考えます。

展覧会

会期

2015年11月13日（金）～12月26日（土）
日・月・祝休み

開館時間

11:00～19:00
(入場は閉館時間の30分前まで)

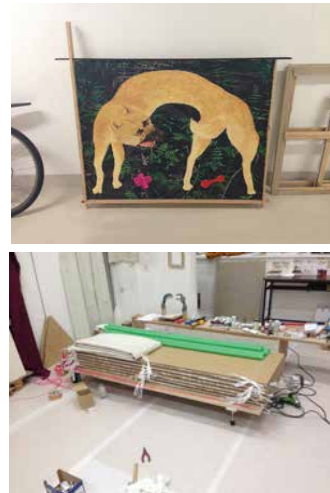
入場料

無料

会場

Minatomachi POTLUCK BUILDING
3F : Exhibition Space

企画

佐藤克久（美術家）
Minatomachi Art Table, Nagoya [MAT, Nagoya]上：川角岳大《I'm a dog》2015
下：川角岳大《2*3》2015

トークシリーズ「絵画の夕べ」

絵画についてアーティストや美術館学芸員をゲストに迎えたトークシリーズ

- 第1回 「絵画を続けていくこと」 11月21日（金）18:00-20:00
スピーカー | 田島秀彦・山田純嗣（アーティスト）
笠木日南子（名古屋市美術館学芸員）
- 第2回 「種明かしと方法」 11月27日（金）19:00-21:00
スピーカー | 花木彰太・前川祐一郎（アーティスト）
天野一夫（豊田市美術館チーフキュレーター）
- 第3回 「絵画のこれから」 12月19日（土）18:00-20:00
スピーカー | 川角岳大・小島章義・堀 至以・守本奈央（本展出展アーティスト）
島 敦彦（愛知県美術館館長）

会場 Minatomachi POTLUCK BUILDING 1F 予約不要・定員30名

■ 展覧会の見どころ

アーティストの問題意識から立ち上がった展覧会

今日の現代美術では、参加型や共同制作といった他者との交わりの中で制作される作品が多く見受けられるようになりました。その一方で「絵画」では、長い歴史の中で「描く」という孤独な行為によって表現を模索してきたジャンルといえるでしょう。本企画は、「絵画」という表現が次のフェーズへ向かうために必要とする「何か」というものを、絵画と向き合うアーティストや学芸員と共に「言葉」や「経験」を共有し、考察するための取り組みです。

「なにか=次元」として

出展作家は、絵画と並行して、立体物の作品を制作する4名です。本展では、タイトルの「絵画の何か」を「次元」と仮定して、2次元（平面作品）と3次元（立体作品）という、素材や技法や思考の制約を飛び越えて取り組む彼らの作品から「絵画」の「何か」を模索します。

ただ良い絵が見ただけ、描きただけ、のはずなのに！

佐藤克久

“描く事が生きること”に直結している人を除いて、作品を作る必然はどこから借りてきたような言葉や生活の中から見つけたものごとで取り繕い、それが自分にとってのリアルなのか（と思いつくか）、アトリエ内での制作のやり取りから得た実感を原動力にするかのどちらかです。このシリーズは“描く事が生きること”に直結していない人について考察します。

経験をモトにした「実感のこもった画家の言葉」は、特別なように思えるのですが、ある程度の経験を積んだ画家同士なら共有できる感覚です。この画家の感覚をオープンにすることで、取り立てて特別なことではないということと、特別なことが見えてくるかもしれません。共通認識から先の“ある境地”に向かうためには、もはや一人きりで立ち向かうのではなく、多くの経験と言葉を共有し、特別なことを拾い上げ、それらを推進力にして未だ見ぬ絵画を目指せたらと思うのです。

それともう一つ。自分と作品のやり取り、共通認識をベースにしつつ外部からの“何か”を無理やりにも導入しないと、似たり寄ったりな現状を突破出来ないのではと思いついたのです。“何か”は理念のようなもので、たとえば「アニメを取り入れる」とか「美術史に寄り添う」といった交換可能なコンセプトなどでは無いように予想しているのですが、今のところ私にはワカラナイのです。このシリーズでは、導入する“何か”が何なのかを探る意味も持つのです。

絵画を中心に展覧会を企画するシリーズ「絵画の何か」の第一回目として「何か=次元」と仮定し、川角岳大、小島章義、堀至以、守本奈央の作品を展示します。

この4名は世代も制作場所もそれぞれ異なりますが、共通しているのは、絵画と並行して立体作品を制作している点です。素材や技法や思考の制約を軽々と飛び越えて、二次元である絵画と三次元である立体に取り組んでいます。彼らにとって当たり前の制作方法をひとつの共通認識として、形式を超えて地続きに広がる表現について考えていきましょう。

同時期開催

Botão Gallery vol.2 富永敏博 個展

会期 2015年11月13日(金)~12月5日(土)
日・月・休済み

開館時間 11:00~19:00 (入場は閉館時間の30分前まで)

会場 Botão Gallery

入場料 無料

企画監修 渡辺英司・MAT, Nagoya



【お問い合わせ】

港まちづくり協議会事務局

広報 | 岡西

〒455-0037 名古屋市名港1-19-23

Minatomachi POTLUCK BUILDING

TEL | 052-654-8911

Mail | okanishi@minnatomachi.jp

Web | minnatomachi.jp mat-nagoya.jp

Minatomachi POTLUCK BUILDING

名古屋市港区名港1-19-23

Botão Gallery (ボタンギャラリー)

名古屋市港区名港1-15-13

■ 企画者プロフィール

▶ 佐藤克久 / Katsuhisa Sato (美術家)

1973年広島県生まれ。愛知県在住。活動当初は概念的な立体や写真作品を発表していたが、近年は絵画形式を中心に制作している。主な展覧会に「反重力」(豊田市美術館、愛知、2013年)、「リアル・ジャパネスク」(国立国際美術館、大阪、2012年)などがある。MAT, Nagoyaのコミッティーメンバーも務める。
web : <http://satokatsuhisa.jimdo.com>



佐藤克久《ものだね》2015

■ 出展アーティストプロフィール

▶ 川角岳大 / Gakudai Kawasumi

1992年愛知県生まれ。東京都在住。犬、カニ、車、パイナップルなどの絵を描き、木材なども使用した大きなものなど、幅広く制作している。主な展覧会に「The Bear year」(Gallery FINGER FORUM、愛知、2013年)、「science fiction II」(Art spot Korin、京都、2014年)、「ド根性絵画説」(名古屋市民ギャラリー矢田、愛知、2015年)、「アートアワードトーキョー丸の内 2015」(丸ビル1F マルキューブ、東京、2015年)などがある。



川角岳大《I'm a dog》2015

▶ 小島章義 / Akiyoshi Kojima

1979年愛知県生まれ。愛知県在住。絵画作品を主題に平面作品の他、近年ではレリーフ、立体作品なども制作している。主な展覧会に「FROM yadokari tokyo vol.14」(itadaki BLDG.、東京、2015年)、「Unknown Nature」(早稲田スコットホールギャラリー、東京、2014年)、「アートプログラム青梅 雲をつかむ作品たち」(青梅市立美術館、東京、2013年)、「little island」(GALLERY TERRA TOKYO、東京、2013年)などがある。

web : <http://little-island.webnode.jp/>



小島章義《factor x》2015

▶ 堀 至以 / Chikai Hori

1988年愛知県生まれ。石川県在住。ドローイングを制作の土台とし、抽象的な絵画及び立体の制作を行っている。制作の中での発見を形態化していくことで、変容する可能性を内包した作品について思考している。主な展覧会に「Make The Plant」(問屋まちスタジオ、石川、2014年)、「ファン・デ・ナゴヤ美術展2014 虹の麓ー反射するプロセスー」(名古屋市民ギャラリー矢田、愛知、2014年)などがある。

web : <http://horichikai.web.fc2.com>



堀 至以《Fragment》2014

▶ 守本奈央 / Nao Morimoto

1991年兵庫県生まれ。愛知県在住。平面、立体を問わず、「なんともいえないさ」「とるにたらしさ」などの弱くかすかな気配をテーマに手法を固定することなく制作をしている。作品がなにものにもなりきらない状態をよしとし、従来とはことなる絵画へのアプローチを行っている。主な展覧会に「ド根性絵画説」(名古屋市民ギャラリー矢田、愛知、2015年)、「森のオープスタジオ」(美濃加茂文化の森、岐阜、2015年)などがある。

web : <http://www.nao-morimoto.com>



守本奈央《オムニバス (いのち)》2015

■ 絵画のタペ/スピーカープロフィール

▶ 田島秀彦 / Hidehiko Tajima (アーティスト)

1973年岐阜県生まれ。岐阜県在住。古今東西のタイル柄やステンドグラスなど日常に遍在する装飾模様などをモチーフとし、絵画やインスタレーション作品を制作している。主な展覧会に「愛知ノート」(愛知県陶磁美術館、愛知、2015年)、「窓から窓へ、風景から風景へ」(ケンジタキギャラリー東京、東京、2013年)「ポジション2012 名古屋発現代美術 この場所から見る世界」(名古屋市美術館、愛知、2012年)などがある。



田島秀彦 《Arabesque(14-02)》2014

▶ 山田純嗣 / Junji Yamada (アーティスト)

1974年長野県生まれ。愛知県在住。自作の模型を写真に撮影し、そのプリントの上に銅版画を重ね刷る、「インタリオ・オン・フォト」と自ら呼ぶ手法で、3次元と2次元の認識を往還する作品をつくり、「絵画とは何か」という問いに向き合っている。主な展覧会に「山田純嗣展 絵画をめぐって 理想郷と三遠法」(一宮市三岸節子美術館、愛知、2014年)、「アイチのチカラ!」(愛知県美術館、愛知、2013年)などがある。

web <http://junji-yamada.com/>

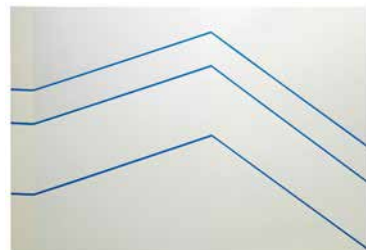


山田純嗣 《GERDEN OF EARTHLY DELIGHTS》2010-12

▶ 花木彰太 / Shota Hanaki (アーティスト)

1988年愛知県生まれ。愛知県在住。関係性としての絵画をテーマとし、日常的な風景や建築、家屋などの構造物とそこから生まれる光と影を色面、線など絵画の基本的な要素に還元し絵画を制作。主な展覧会に「meeting」(GALLERY VALEUR、愛知、2015年)、「in the forest」(metsa、愛知、2015年)、「Flesh and bone」(海岸通キギャラリーCASO、大阪、2013年)などがある。

web <http://www.shotahanaki.com>



花木彰太 《structure》2015

▶ 前川祐一郎 / Yuichiro Maekawa (アーティスト)

1981年静岡県生まれ。愛知県在住。前川作品は、制作するなかで画面の内や外で感じられる知覚を頼りにして描かれており、他者と感覚として共鳴できる部分を大事にしながら、描かれたものが想像力を誘発するような画面について考察している。主な展覧会に個展(愛知県立芸術大学サテライトギャラリー、愛知、2015年)、「Row Row Row Your Boat/TWS-Emerging 2014」(トーキョーワンダーサイト渋谷、東京、2014年)などがある。

web <http://yuichiromaekawa.blogspot.jp>



前川祐一郎 《untitled》2015

■ 絵画のタベ/スピーカープロフィール（続き）

▶ 笠木日南子／Hinako KASAGI（名古屋市美術館学芸員）

富山県生まれ。あいちトリエンナーレ2010ではキュレーターを務めた。

主な展覧会に「放課後のはらっぱ 櫃田伸也とその教え子たち」（愛知県美術館・名古屋市美術館、愛知、2009年）「ポジション2012 名古屋発現代美術 この場所から見る世界」（名古屋市美術館、愛知、2012年）、「親子で楽しむアートの世界 遠回りの旅」（名古屋市美術館、愛知、2014年）などがある。

▶ 天野一夫／Kazuo AMANO（豊田市美術館チーフキュレーター）

1959年東京都生まれ。O美術館学芸員、京都造形芸術大学教授を経て現職。

主な展覧会に「ART IN JAPANESE」（O美術館、東京、1993年）、「メタモルフォーゼ・タイガー」展（O美術館、東京、1999年）、「近代の東アジアイメージ—日本近代美術はどうアジアを描いてきたか」（豊田市美術館、愛知、2009年）、「変成態—リアルな現代の物質性」展（gallery αM、東京、2009-10年）などがある。

▶ 島 敦彦／Atsuhiko Shima（愛知県美術館館長）

1956年富山県生まれ。富山県立近代美術館、国立国際美術館を経て現職。

主な展覧会に「瀧口修造とその周辺」（国立国際美術館、大阪、1998年）、「小林孝巨」展（国立国際美術館、大阪、2000年）、「O JUN」展（国立国際美術館、大阪、2002年）「絵画の庭—ゼロ年代日本の地平から」（国立国際美術館、大阪、2010年）、「あなたの肖像—工藤哲巳回顧展」（国立国際美術館、大阪、2013-14年）などがある。

広報用画像の使用について

本プレスリリース内の画像を使用する場合は下記へお問い合わせください。

※写真に添付しているキャプション・クレジット等を正確に表記してください。

港まちづくり協議会 広報 | 岡西 okanishi@minnatomachi.jp